

グループワークテーマ

令和5年施行 職員採用試験

指示があるまで開いてはいけません。

注 意

1. 問題は**1題**です。
2. グループ討議時間は**50分**です。
3. この冊子は持ち帰ることができます。

問 題

東京都は、あらゆる分野でのリアルタイムデータの活用が可能となり、意思決定や政策立案等で活用できるデジタルツインの実現に取り組んでいる。あなた達は、サイバー空間とフィジカル空間の融合によるデジタルツインの実現を推進し、新たなサービス開発・展開を促進するプロジェクトチームに選ばれた。

意思決定や政策立案等の場面でデジタルツインを活用し、都民のQOL（Quality of life）を向上させるために、東京都は、どのように取り組んでいくべきか。資料1～3を参考に、チームで議論し、東京都職員として職場の上司に説明するために必要なポイントをホワイトボードにまとめなさい。

資料 1

デジタルツインの実現加速化プロジェクト

市内データ連携基盤の構築や点群データの取得・整備を通じて、デジタルツインの基盤高度化を加速

- 現実空間のデータを仮想空間に3Dで再現し、様々な分析・シミュレーションが可能となる「デジタルツイン」について、市内データを連携するための基盤を構築するとともに、活用事例の創出につながる取組を推進していきます
- 各局及び民間事業者が活用できる共通基盤データとして、地物や地形などを3次元にモデル化するために必要な点群データを取得・整備し、これらを公開します。また、整備後のデータを3Dビューア上でも活用し、デジタルツイン基盤の高度化につなげていきます

出典：東京都「シン・トセイ2 都政の構造改革QOSアップグレード戦略 version up 2022」

(2022年2月) より作成

<デジタルツインとは>

センサーなどから取得したデータをもとに、建物や道路などのインフラ、経済活動、人の流れなど様々な要素を、サイバー空間（コンピューターやコンピューターネットワーク上の仮想空間）上に「双子（ツイン）」のように再現したもの

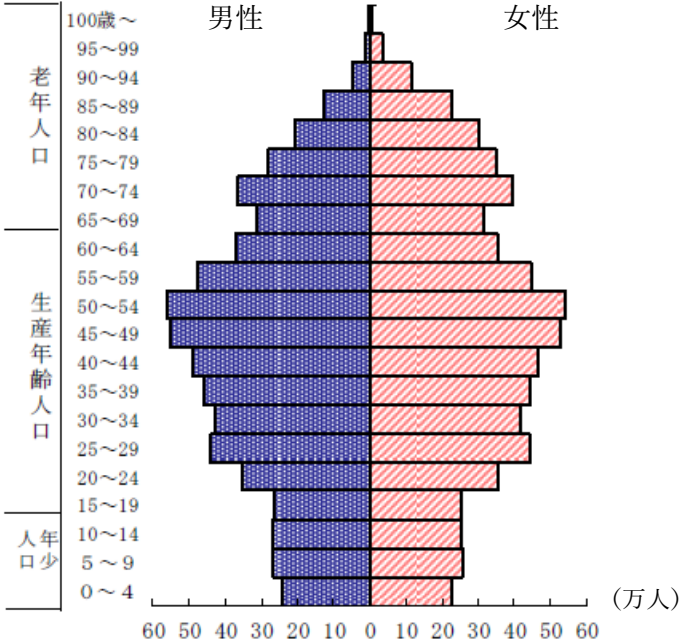


フィジカル空間（現実空間）の様々な分野における活動から取得されるリアルタイムなデータに基づき、サイバー空間（仮想空間）において高度な分析・シミュレーションを行い、その結果を高速かつインタラクティブなかたちでフィジカル空間にフィードバックする。デジタルツインの活用とは、この継続的なループが実現されている状態をいう。

出典：東京都「デジタルツインの社会実装に向けたロードマップ」（2022年3月）より作成

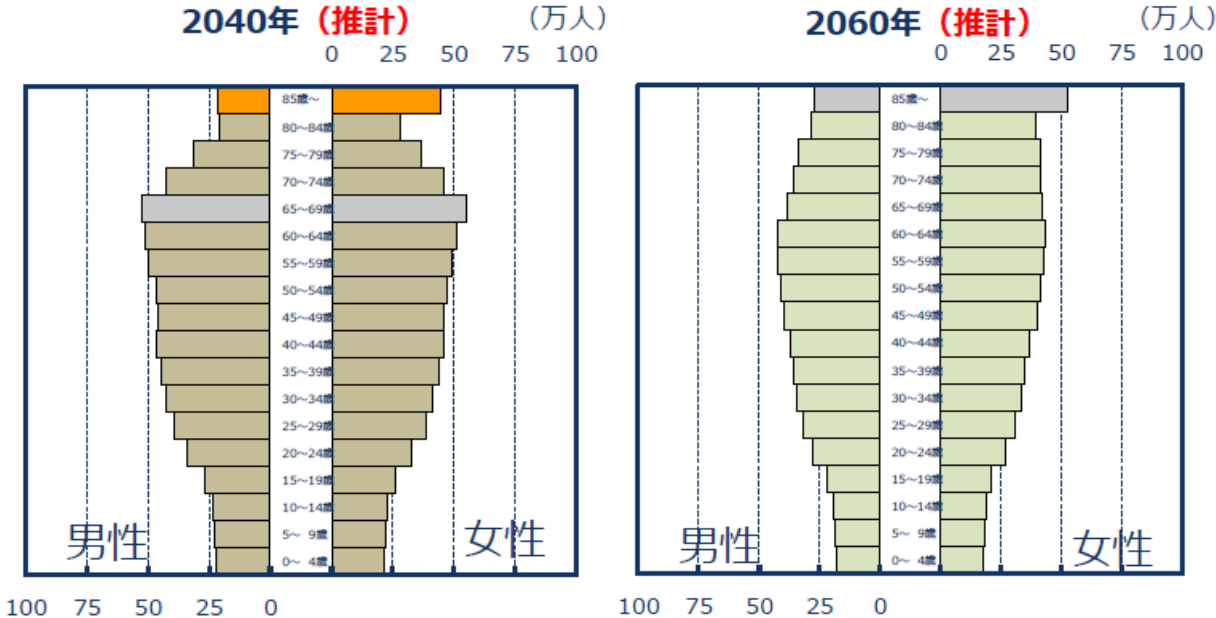
資料 2

東京都の人口ピラミッド



出典：東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（年齢別）」（令和5年1月1日現在）

東京都の人口ピラミッドの推移（推計）



出典：東京都「『未来の東京』戦略 付属資料」（令和3年3月）より作成

資料 3

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の高度な融合

※ この部分は、著作権の関係により、掲載できません。

出典：内閣府「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」より作成